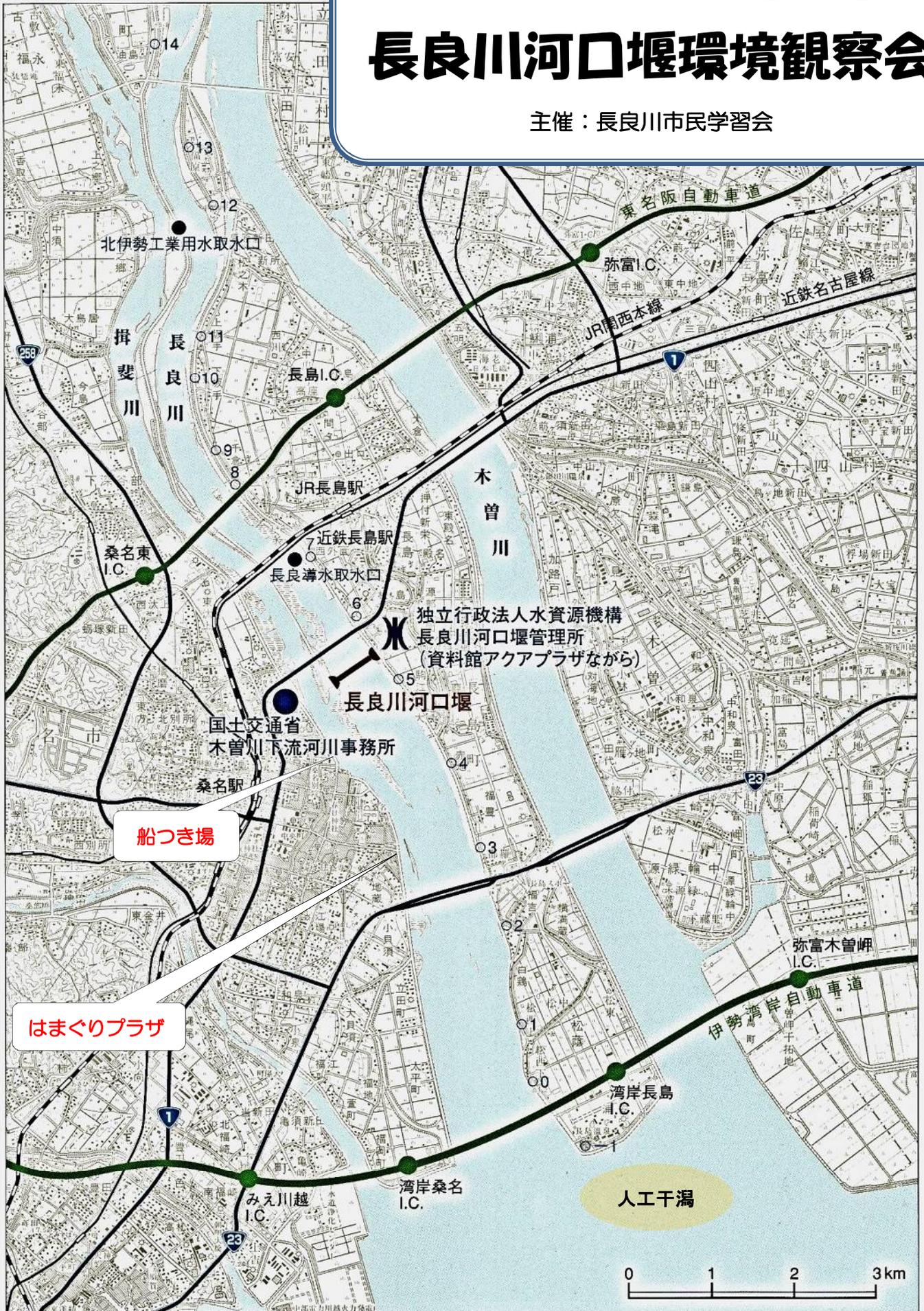


長良川河口堰環境観察会

主催：長良川市民学習会



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分1地形図を複製したものである。
(承認番号 平18部複、第40号)

観察会プログラム

10:00 出船

- ① 揖斐川（中央部） 河床土砂調査
- ② 長良川河口堰下流 河床土砂調査
- ③ 河口堰閘門通過
- ④ 河口堰上流 ヨシ原調査
- ⑤ 長良導水取水口
- ⑥ 河口堰閘門通過
- ⑦ 長島沖人工干潟

12:00ごろ 船着き場に戻る

12:30ごろ はまぐりプラザにて 昼食

13:30ごろ はまぐりプラザ展示会場見学・解散

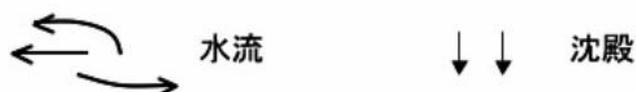
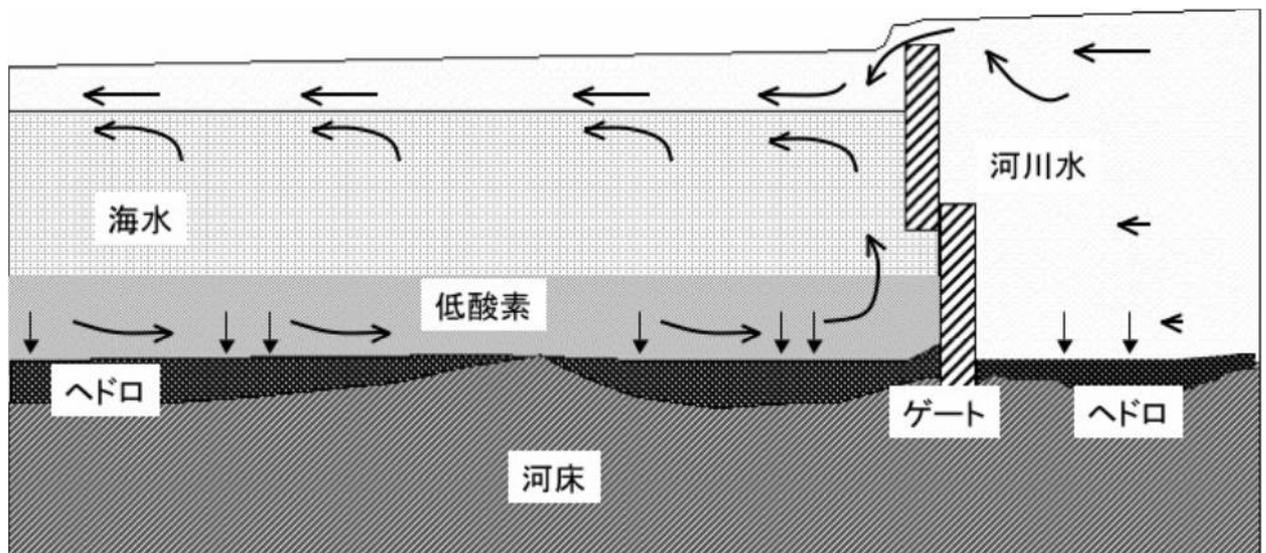
人工干潟

水生生物達の生息環境を創出するため、揖斐川・長良川の河川改修に伴って発生したしゅんせつ土砂を利用して、人工干潟を2カ所（城南沖・長島沖）造成しました。

それぞれの広さは約20ヘクタールです。これにより、アサリ、ハマグリ等の生息域が広がるとともに、鳥類等の餌場や休息地にもなっています。



長島沖（左：長良川・右：木曾川）

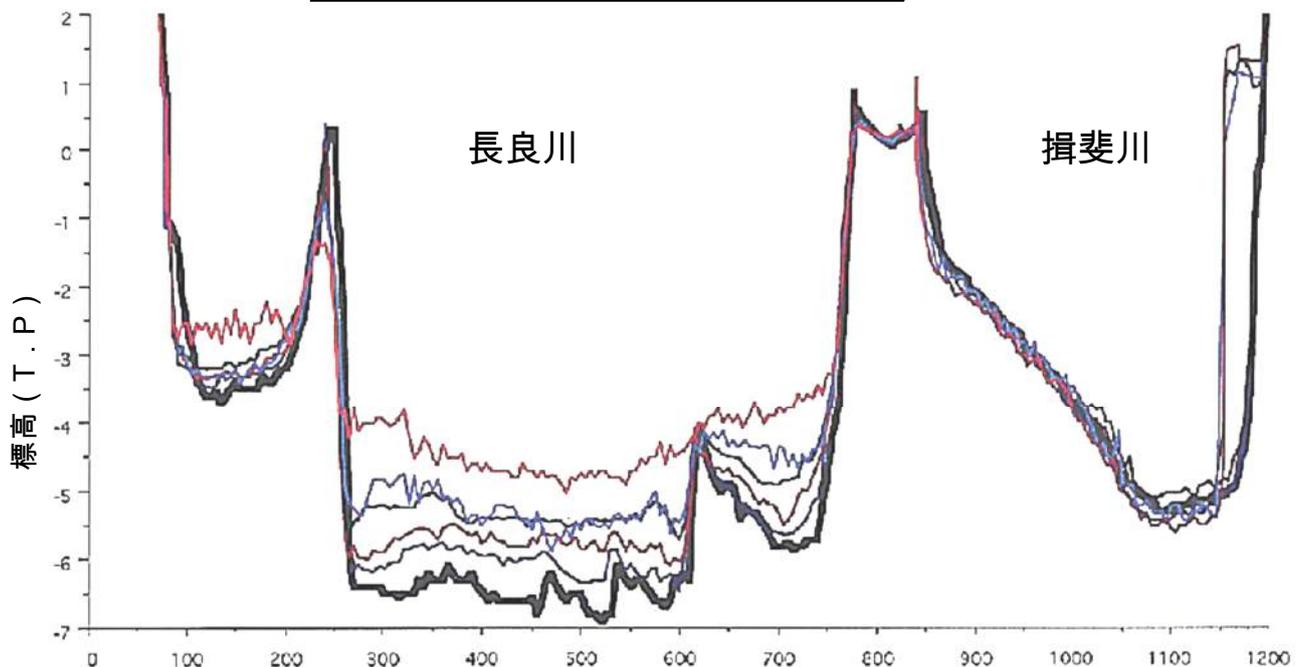


河口堰によって引き起こされる水流の変化と低酸素層、ヘドロの形成

長良川4.8 km地点横断測量図

(国土交通省の測定データによる)

- H13.1
- H11.1
- H10.1
- H0.7
- H7.7
- H6.1



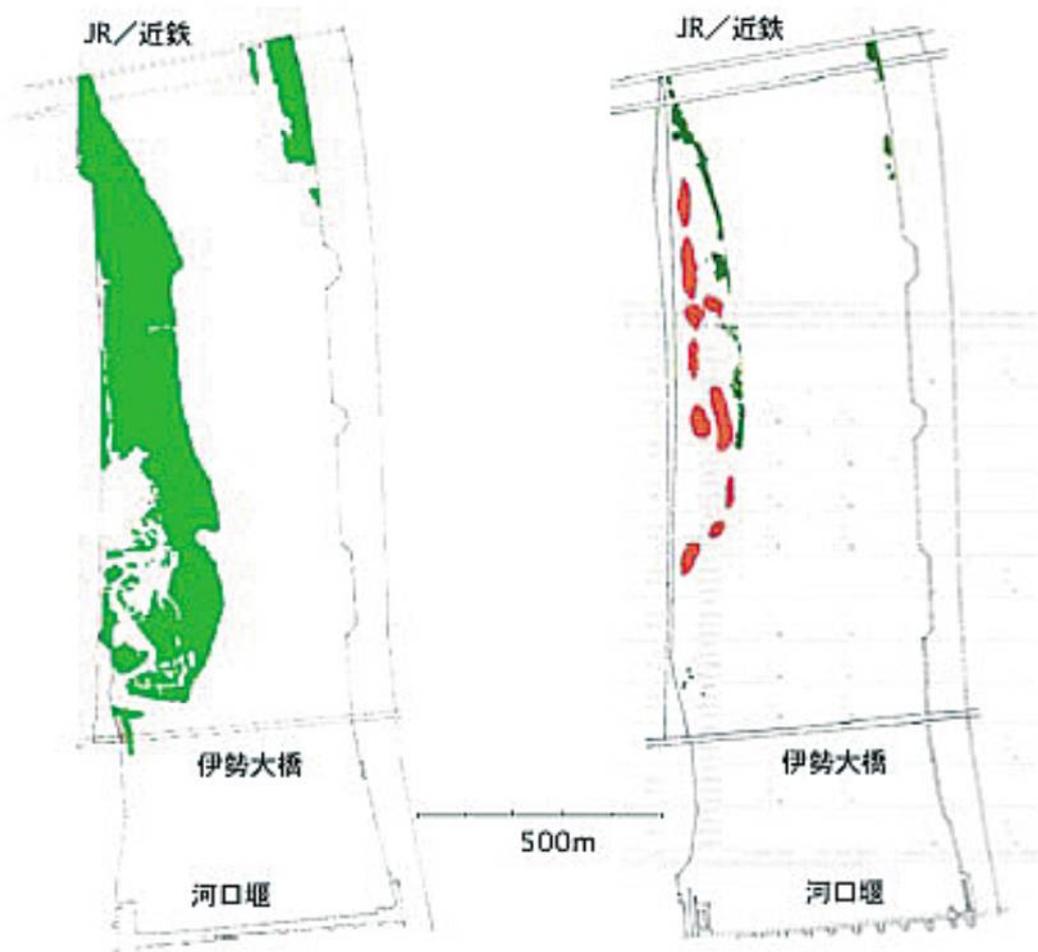
河口堰下流における河床変動．国土交通省の河川横断測量データより作成

河口堰運用後、河床が経年的に上昇したことがよくわかる．1999年9月の出水後に大規模な河床上昇が見られる．

揖斐川では、この間河床変動はほとんどなかった．

1994年
15.4 ha

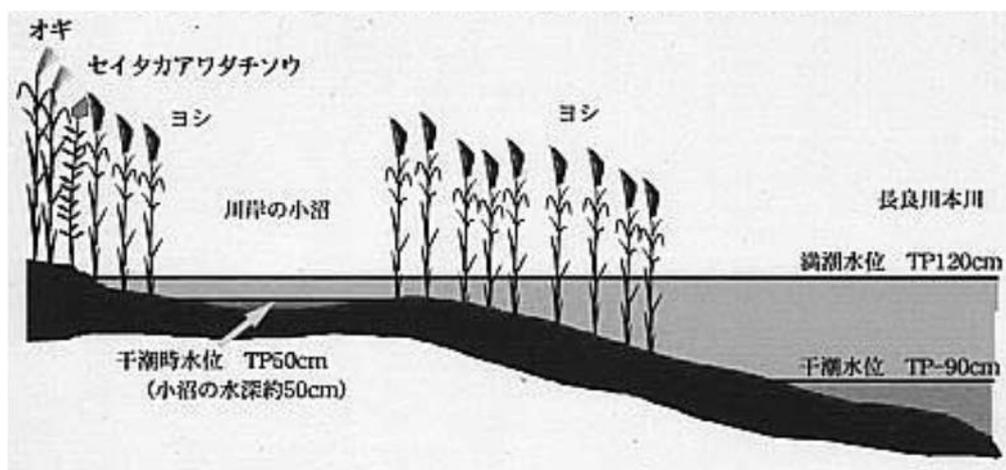
2002年
0.7 ha (残存率 4.5%)



長良川河口堰湛水域におけるヨシ群落の変化

緑部分がヨシ原. 2002年のオレンジ部分は国土交通省・水資源機構によるヨシ植栽造成中州. 植栽地のヨシ群落面積は2002年のヨシ群落面積の推定値に含まれていない.

河口堰運用前の模式図



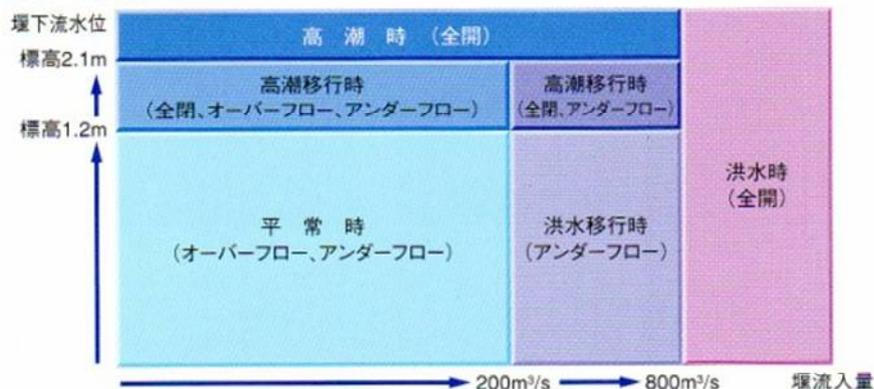
ゲートの操作の基本

長良川河口堰のゲートは環境に配慮して全てが2段式となっており、オーバーフロー、アンダーフローのきめ細かな操作が可能な構造となっています。

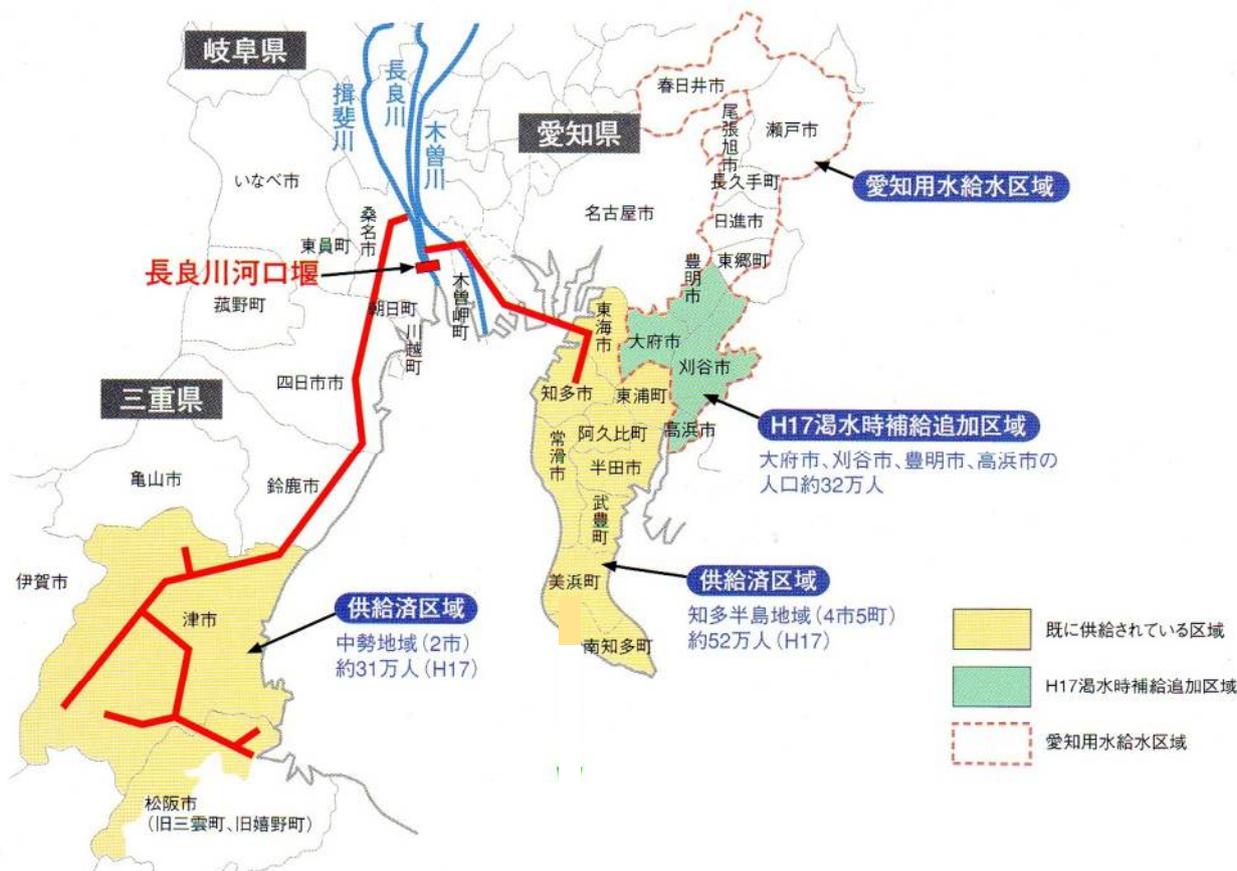
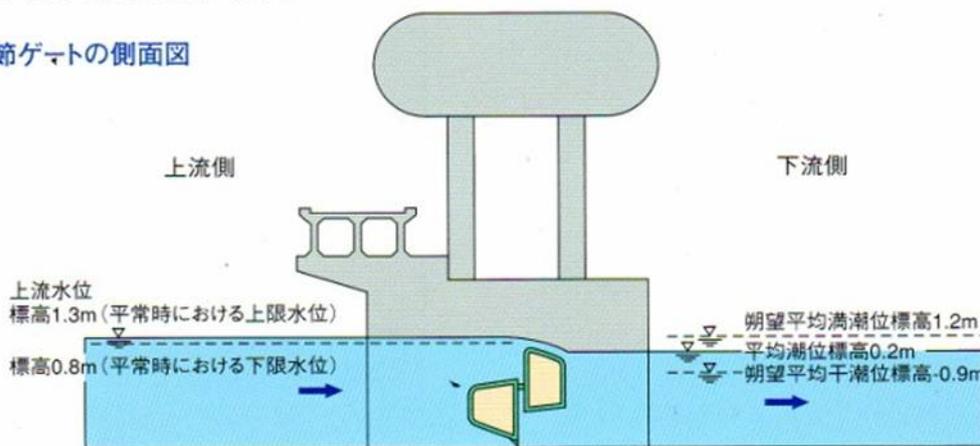
ゲートの操作は、堰流入量と堰下流水位により右図のように平常時、洪水時、高潮時と洪水、高潮への移行時とに分かれます。またこの他に津波時の操作が加わります。

それぞれの状況に応じて、次に説明するような操作を行います。

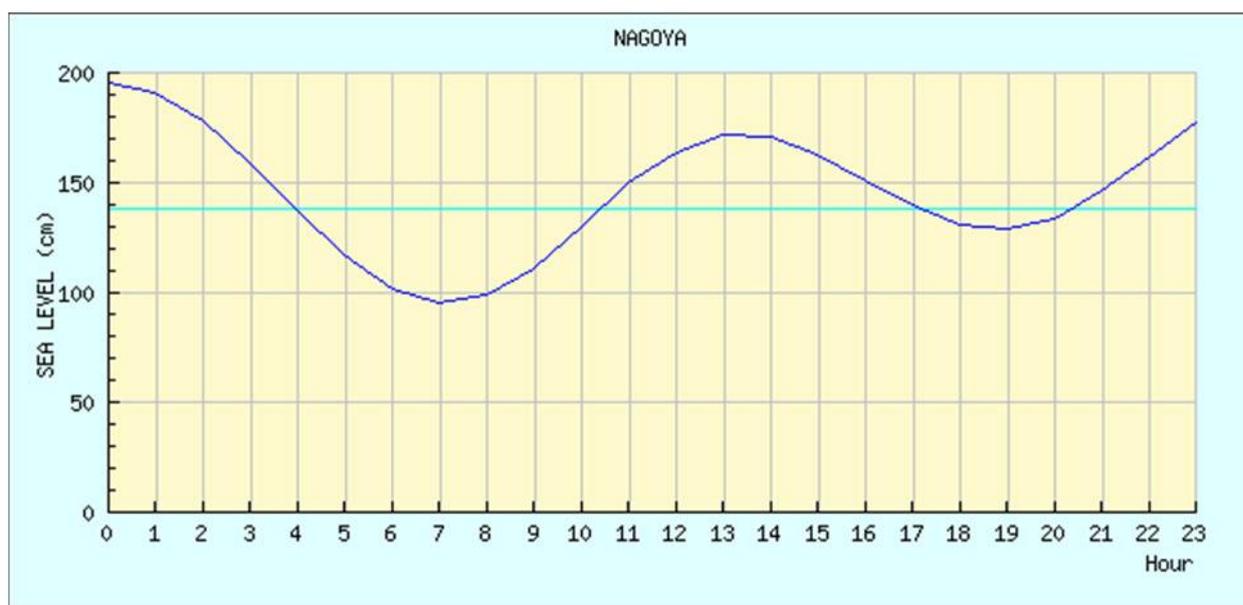
●ゲート操作区分図



●調節ゲートの側面図



名古屋 2011年6月25日の潮位予測



観測結果

2010. 10/19 Am10:30~11:30	揖斐川 (中央)	長良川 (右岸から20m)	長良川 (中央)
水深 (m) : 潮位 TP 約-0.5m	1.95	1.6	3.6
水温 (°C)	20.0	20.0	21.0
形状など	砂 (褐色) 臭気なし ヤマトシジミ確認	砂 ヤマトシジミ確認	ヘドロ (黒色・粘りけ強い) 「ドブ」臭気あり
酸化還元電位 (mV)	+160mV	+116mV	-402mV

2011. 6/25 Am10	揖斐川 (中央)	長良川 (右岸から20m)	長良川 (中央)
水深 (m) : 潮位 TP 約-0.5m			
水温 (°C)	26.0		27.0
形状など	砂 (褐色) ヤマトシジミが4個		シルト・泥 (黒褐色) 表面は褐色に近いが、 内部は黒い。 イトメ1, シジミ1
酸化還元電位 (mV)	+170mV		-359mV